

稲作・麦作

「平成29年度 稲作・麦作総合改善研修会」を開催

本年度も、北海道米麦のさらなる安定生産・品質向上を図る目的として3月2日（金）にホテルモントレエーデルホフ札幌（札幌市）にて「稲作・麦作総合改善研修会」を開催しました。全道各地の生産者・農協や関係機関・団体等から200名の参加をいただき、稲作・麦作共励会の最優秀受賞者に北海道農政部の宮田生産振興局長から表彰状、大西本会専務理事より表彰盾と副賞の授与並びに生産技術に関する優良事例の発表および外部講師による特別講演を行いました。



大西専務挨拶



受賞者一同

1. 稲作（第55回北海道優良米生産出荷共励会）

本年は移植栽培の個人2部門、生産グループ1部門、直播栽培の個人・生産グループの合計4部門で6点の出展があり、うち4点が最優秀賞として表彰されました。

1) 移植栽培の部

(1) 個人の部 第1部うるち米2ha以上：高原成徳（JA北ひびき・和寒町）

耕地面積22haの約半分に水稻を作付けしていますが、泥炭や重粘土が多い土壌条件であるため、溝切り、心土破碎、客土および土壌改良資材の投入等による水田の透排水性改善や、側条施肥の導入による初期生育の促進および稲わらの全量搬出等により良質米生産に努めています。直近3カ年の平均では、収量が550kg/10a程度で市町村収量をやや上回り、白米蛋白質6.8%以下の低タンパク米は約65%の出荷割合です。



知事賞受賞

(2) 生産グループの部 第1部うるち米20ha以上：静内稲作振興会クリーン部会（新ひだか町）

5戸の生産者からなる生産グループで、減農薬等の環境保全型農業に取り組み、土壌改良資材の投入、溝切り、心土破碎等による水田の透排水性の改善・維持や側条施肥割合を高めて初期生育を促進するなど基本技術を実践して良質米生産に努めています。

低タンパクで高品質な「ななつぼし」を、「万馬券」のブランドで高付加価値販売し、所得の向上を図るとともに、町の飲食店でも地元の低タンパク米を使用しており、好評を得ています。



協会長賞

2) 直播栽培の部

(1) 個人の部 2ha以上：山口勝利（美唄市）

(2) 生産グループの部 20ha以上：美唄市水稻直播研究会（美唄市）

個人受賞の山口氏も所属する美唄市水稻直播研究会は、昭和63年に設立され会員19戸で始まり、現在（平成29年）は55戸、直播面積273haで主食用米、加工用米、飼料用米がほ



協会長 受賞者

は3分の1ずつの割合です。最近では、基盤整備時に地下灌漑方式を採用し、整備後の圃場を直播栽培に利用しています。乾田播種・早期入水という基本的な技術は変わっておらず、水田の均平を重視すること、鉄粉を含めた資材による種子コーティングを行うこと、緩効性肥料を組み合わせた全層施肥と側条施肥により追肥は行わない、そして収量は600kg以上をねらう等の技術の実践により地域の良質米生産における省力化を進め農家経営に寄与してきました。

2. 麦作（第38回北海道麦作共励会）

本年度の出展は、7点で、第1部（畑地における秋まき小麦）個人で2点、同グループで1点、第2部（水田転換畑における秋まき小麦）個人で1点、同グループで1点および第3部（全道における春播き小麦）個人で2点でした。

1) 畑地における秋まき小麦・個人部門：林 常行（浦幌町）

畑作+園芸の複合経営で、約28haの畑地に小麦、小豆、菜豆、てんさい、ばれいしょ、かぼちゃなどを栽培しています。平成29年産の小麦反収は約13俵で、過去2年の平均も13俵を超える高い反収で、等級も全量1等、ランク区分も基準値内と申し分のない小麦でした。安定生産を達成している要因として、特に粘性が高い土壌条件を克服するため、計画的に国・道の事業を活用した暗きょ施工を行い、また、自力で補完的に山砂利と作土層に炭を用いるなどの透・排水性対策に努力しています。

2) 水田転換畑における秋まき小麦・個人部門：吉田 彰（美唄市）

水田+畑作+園芸の複合経営農家で、経営面積は約16haで、内水田面積が8haです。平成29年産の小麦反収は、9.4俵で、過去2年の平均反収でも11俵と高く、地区平均の1.4倍です。安定生産を達成している要因として、小麦の連作回避のために田畑輪換や大豆間作小麦栽培に取り組んでいます。また、最近では越冬キャベツなどの青果物の生産組織を立ち上げるなど、収益性の高い農業を目指す若手農業者の中心的な役割を担っています。

3) 畑地における秋まき小麦・グループ部門：摩周コンバイン利用組合（弟子屈町）

摩周コンバイン利用組合は、弟子屈町全域をカバーする地域にあって昭和63年設立で、現在14戸で構成されています。経営面積は約1,334haで、内小麦面積は242haです。

平成29年産の反収は、約8俵で全道の平均をやや下回りました。当地区は、他産地に比べ積算気温が低く、日照時間も短く成熟期は8月上旬と全道で最も遅い収穫期を迎えますが、この気象や土壌条件と向き合いながら、地域一丸となって安定生産を目指し、平成14年以来右肩上がりの反収を得て主産地に近づいています。

4) 春まき小麦における全道一円・個人部門：大橋豊彦（恵庭市）

畑作+園芸の複合経営で、水田転換畑の耕地面積47haに、春・秋まき小麦、てんさい、大豆、だいこんを栽培しています。平成29年産の反収は、8俵と全道平均の1.6倍と高く、1～2等麦比率も89%と高い成績でした。平成元年に中古の普通型コンバインを導入し、水稲で利用していた縦型乾燥機をフル活用して安定生産の麦づくりに励んでいます。

また、泥炭地帯であることから、明・暗きょの整備による排水性改善には万全を期し、加えて平成23年にはレーザーレベラを導入し効率的な表面排水なども行っています。

特別講演

有限会社エイ・エル・ピー代表取締役社長で健康心理士 八尾稔啓氏に、「活力ある農村社会の実現に向けて」と題して特別講演をいただきました。講演では、活力を出す根っこをつかむためには脳の活性化やアクティブな行動が必要であることや、ストレスとの上手なつきあい方および簡易なりラックス法にも触れられ、気持ちを広く持つことの重要性についてお話し頂きました。



参加者風景



謝辞



水田事例発表

(文責：一般社団法人 北海道米麦改良協会技監 相川宗厳)

第55回（平成29年度）北海道優良米生産出荷共励会 受賞者名簿

※敬称略

1. 移植栽培部門

【個人の部】

【第1部うるち米 2ha以上】

表彰名	氏名	市町村名	所属農協名
最優秀賞	高原成徳	和寒町	北ひびき
優秀賞	松原興昭	蘭越町	ようてい

【第2部もち米 2ha以上】

表彰名	氏名	市町村名	所属農協名
優秀賞	戸澤和幸	黒松内町	ようてい

【生産グループの部】

【第1部うるち米 20ha以上】

表彰名	氏名	市町村名	所属農協名
最優秀賞	静内稲作振興会クリーン部会	新ひだか町	しずない

【第2部もち米 10ha以上】

【出展なし】

2. 直播栽培部門

【個人の部 うるち米 2ha以上】

表彰名	氏名	市町村名	所属農協名
最優秀賞	山口勝利	美唄市	びばい

【生産グループの部 うるち米 20ha以上】

表彰名	氏名	市町村名	所属農協名
最優秀賞	美唄市水稲直播研究会	美唄市	びばい